



Title	《資料紹介》『新夕刊』文藝記事目録（一九四七）
Author(s)	斎藤, 理生
Citation	阪大近代文学研究. 2025, 23, p. 53-74
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/101057
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

《資料紹介》『新夕刊』文藝記事目録（一九四七）

斎藤 理生

本稿は、敗戦直後の新聞『新夕刊』に掲載された、一九四七年一月から二月までの文藝記事の所在を記したものである。『昭和文学研究』第九〇集（二〇一五・三）掲載の拙稿『資料紹介』『新夕刊』文藝記事目録（一九四六―一世にも不思議な新聞社）の続編にあたる。

『新夕刊』の概要については、右の資料紹介と、「解説・一九四七年の『新夕刊』と坂口安吾 三島由紀夫」『新潮』二〇二四・七）とを参照されたい。ここでは要点のみ述べておく。『新夕刊』は、一九四六年一月から東京で発行されていた新興夕刊紙であった。創刊時から四七年秋にかけて、小林秀雄、林房雄、河上徹太郎、亀井勝一郎、永井龍男、吉田健一ら、いわゆる鎌倉文士を中心とした、多くの文学者が参画したことで知られる。この約二年間は、当時の他の新聞と同じように、表と裏の二面しかなかったにもかかわらず、文藝文化に関わる記事が積極的に掲載されていた。吉田健一「世にも不思議な新聞社の話」『三文紳士』宝文

館、一九五六）など、当時の社内の関連な雰囲気をつた回想も少なくない。ただし、一九四七年末になると文学者が深く関わることはなくなり、一般的な新聞に近くなる。

この二年間の『新夕刊』はほとんど残存しておらず、実際の紙面を確認することは難しい。しかし二〇二四年、日本新聞博物館が多数所蔵していることがわかり、原紙を閲覧する機会が得られた。その中からすでに、小林、坂口安吾、三島由紀夫らの、これまでに知られていなかった資料も発掘されてきた（前掲の拙稿二編を参照されたい）。

ただ、『新夕刊』には他にも、亀井、河上、吉田らの全集未収録資料が含まれている。また、菊池寛の将棋に関する随想や、競馬に関する座談会も、『菊池寛全集』（文藝春秋、一九九三―二〇〇三）に収められていない。最新の書誌情報を取めた大西良生著・菊池寛記念館編『菊池寛研究年譜』（菊池寛顕彰事業実行委員会、二〇二四）にも記載がない。ちなみに、これらの菊池に関わる記事は、いかにも『新

夕刊』らしい内容でもある。創刊号の「自由な新聞」創刊の言葉』（一九四六・一・一八）では「我々は「自由な楽しい新聞」を創る」と、娯楽性が強調されていたからだ。

さらに、林芙美子の随想も、全集はもちろん、廣畑研二『林芙美子全文業目録 未完の放浪』（論創社、二〇一九）に未記載である。羽田義明「太宰治の結婚」という記事には、太宰のこれまで知られていなかった談話が含まれる。この他にも、重要な資料が眠っているかもしれない。

一九四七年の『新夕刊』には、多くの新興紙と異なり、連載小説がない。代わりに、林房雄の「文藝日評」をはじめ、多くの評論や随想が掲載されている点が特徴である。林は六月二四日の「文藝日評」で、次のように述べている。

新夕刊文藝欄もいよいよ五段になった。文化部長の式場俊三君が去り、昔讀賣にゐた労連の眞野律太君が代つた。副社長の永井龍男、参与の小林秀雄、亀井勝一郎、中野實、吉田健一、漫画部の横山隆一、清水崑、田川水泡、元文化部長の河上徹太郎、現社会部長の倉光俊夫君なども局内局外から大いに手伝つてくれることになった。楽しい文藝欄ができるにちがひない。これだけの顔ぶれがそろつてゐて面白くなかつたらどうかしてゐる。

長くは続かなかつた「楽しい文藝欄」の実態は、はたしてどのようなものであつたのか。さしあたり、文藝関係の記事の掲載日、タイトル、執筆者を記録することで、その輪郭だけでも共有するべきだろうと考えた。

なお、日本新聞博物館も、すべての号を所蔵しているわけではない。特に、一九四七年七月六日から八月二六日にかけての約一か月分がない。したがって、その期間に発表された文藝記事については不明である。たとえば、第五次『小林秀雄全集』（新潮社、二〇〇一～二〇一〇）には、四七年六月の『新夕刊』に掲載されたと推測されている座談会「旧文學界同人との対話」が収録され、『小林秀雄全集別巻Ⅱ無私を得る道』（新潮社、二〇〇二）の「年譜」や「作品解題」にも記載されている。しかし、四七年六月の紙面に、この座談会は見当たらない。そのため、原紙が見つかっていない七月から八月の間に掲載された可能性が高い。一方で、後に掲げている、九月一〇日から一七日まで連載された「文学座談会」は、第五次までの『小林秀雄全集』に未収録で、年譜にも掲載されていないものである。

『新夕刊』にはマンガ、演劇、映画、美術、音楽などの記事もあるが、原則として省略した。四七年九月以降には、一面に丸尾長頭のコラム「茶卓」や、秋山安二郎や眞野律

1・22	①	ダンス流行	佐瀬利吾郎
1・22	①	地震予知について	渡邊一夫

1・23 ① 八ツ当たり 玉川一郎

② 将棋 名人に挑戦するは誰か

萩原、大野、塚田の実力如何（下） 菊池寛

① 満員住宅 宮崎博史

① 筍の話

玉川一郎

① 天晴れご注文 含宙軒夢聲

① 湯屋の話 (上) 秋山安三郎

① 湯屋の話（下） 秋山安三郎

① はじめて 玉川一郎

① 機智 関口次郎

② 文藝日評 (1) 本道 林房雄

① 電車性脱臼
佐瀬利吾郎

② 文藝日評(2) スキイ 林房雄

① 世情邪見 宮崎博史

② 文藝日評 (3) 文閥 林房雄

① 馬鹿は 含宙軒夢聲

② 文藝日評 (4) 詩人問答
林房雄

2・3	①	エロスの復讐	亀井勝一郎				鎌倉文庫問題の波紋	大内教授談
	②	文藝日評(5) 迷信	林房雄				文藝日評(14) 新田小説	林房雄
2・4	①	籤に就いて	玉川一郎	2・14	①	不買同盟		佐瀬利吾郎
		文藝日評(6) 挿絵	林房雄		②	文藝日評(15) 小説の型		林房雄
2・5	①	女のたしなみ	澁澤秀雄	2・15	①	昔気質		大佛次郎
	②	文藝日評(7) エロス	林房雄		②	文藝日評(16) 似すぎる		林房雄
2・6	①	嘘発見器	亀井勝一郎	2・16	①	あまのじやく		高見順
	②	文藝日評(8) エロス(下)	林房雄		②	文藝日評(17) 闇小説		林房雄
2・7	①	習字	宮崎博史	2・17	①	それからそれ		秋山安三郎
	②	文藝日評(9) スリラア	林房雄		②	文藝日評(18) 創作		林房雄
2・8	①	役徳	佐瀬利吾郎	2・18	①	ダンスについて		渡邊一夫
	②	文藝日評(10) スイコ伝	林房雄		②	文藝日評(19) 探偵小説		林房雄
2・9	①	華氏の20度	含宙軒夢聲	2・19	①	うけごたえ		関口次郎
	②	文藝日評(11) 道鏡(上)	林房雄		②	文藝日評(20) 批評青年		林房雄
2・10	①	ダンスホール	玉川一郎	2・20	①	退職の理由		宮崎博史
	②	文藝日評(12) 道鏡(中)	林房雄		②	文藝日評(21) ユーモア		林房雄
2・11	①	大人悪童	宮崎博史	2・21	①	先生に教える		秋山安三郎
	①	世界共通の文学	木々高太郎	2・22	①	納税風景		澁澤秀雄
2・12	①	文藝日評(13) 道鏡(下)	林房雄		②	文藝日評(22) 夢		林房雄
2・13	①	介山と村正	浅野武男	2・23	①	近火		含宙軒夢聲
		文筆家ゼネスト戦術へ			②	文藝日評(23) 大浪曼家(上)		林房雄

2・24	① 東洋の美学	中山義秀		② 文藝日評(34) 夢声	林房雄
	② 文藝日評(24) 大浪曼家(下)	林房雄	3・7	① 質屋踊り	鍋一郎
2・25	① 燃料難	芹沢光治良		② 文藝日評(35) 佳作	林房雄
	② 文藝日評(25) 不感症	林房雄	3・8	② 文藝日評(36) 溜飲	林房雄
2・26	① 一尺六寸について	玉川一郎	3・9	① フクチヤン帖	含由伴夢聲
	② 文藝日評(26) 佳作	林房雄		② 文藝日評(37) 苦楽	林房雄
2・27	① 平和の切腹	佐瀬利吾郎	3・10	① 天才	宮崎博史
	② 文藝日評(27) メダカ	林房雄		② 文藝日評(38) 源泉(上)	林房雄
2・28	① イヌノフグリ	高見順	3・12	① 当世奇人傳	浅野武男
	② 文藝日評(28) 作文	林房雄		② 文藝日評(40) 力作	林房雄
3・1	① 漫画に就いて	宮崎博史	3・13	① 報知への願ひ	玉川一郎
	② 文藝日評(29) 天皇創造	林房雄		② 文藝日評(41) 忠言	林房雄
3・2	① 断酒	含由伴夢聲	3・14	② 文藝日評(42) 地獄絵	林房雄
	② 文藝日評(30) 詩と真実(上)	林房雄		② 文藝日評(43) 鳴呼!	林房雄
3・3	① 燃料譚	玉川一郎	3・15	② 春の競馬を語る(1) 第一回の本馬場 菊	佐瀬利吾郎
	② 文藝日評(31) 詩と真実(中)	林房雄		池寛・田中和一郎・岡田光一郎(以下出席者略)	
3・4	① 民主社長	宮崎博史		② 文藝日評(43) 鳴呼!	林房雄
	② 文藝日評(32) 詩と真実(下)	林房雄		② 春の競馬を語る(2)	
3・5	① 帽子愛用	佐瀬利吾郎	3・16	② トキノミドリとトキノホシ	
	② 文藝日評(33) 緑波	林房雄		② 文藝日評 大先生	林房雄
3・6	① 売り声	玉川一郎			

3・17	②	春の競馬を語る(3)	サラ四歳の有望組	3・28	②	恐るべき子供	佐瀬利吾郎
3・18	②	危機	含宙軒夢聲			文芸日評 空想	林房雄
		春の競馬を語る(4)	四歳牝馬特別を狙う馬	3・31	②	文芸日評 非小説	林房雄
		文藝日評 超越	林房雄	4・1	②	警察の問題	玉川一郎
3・19	②	住宅問題	芹沢光治良	4・2	②	捕物帖について	木々高太郎
		春の競馬を語る(5)	アラブ四歳の有望組			文芸日評 困った話	林房雄
		文藝日評 アメリカ映画	林房雄	4・3	②	結婚とは?	宮崎博史
3・20	②	コワイ話	玉川一郎			文芸日評 政治と文学	林房雄
		春の競馬を語る(終)	障害馬の形勢	4・4	②	文芸日評 失語症	林房雄
		文藝日評 人間喜劇	林房雄	4・5	②	文芸日評 笑ふ男	林房雄
3・21	②	運動神経	宮崎博史	4・6	②	文芸日評 戯作	林房雄
		文藝日評 実存主義	林房雄	4・7	②	人類とは何ぞ	亀井勝一郎
3・22	②	文藝日評 佳作	林房雄			文芸日評 休息	林房雄
3・23	②	文藝日評 変種	林房雄	4・8	②	長命	含宙軒夢聲
3・25	②	荷風文学	渡邊一夫			文芸日評 佳作抄	林房雄
		文藝日評 発狂	林房雄	4・9	②	ひよどり	澁澤英雄
3・26	②	獣人	中山義秀			文芸日評 新劇(上)	林房雄
		文芸日評 米化	林房雄			文化人のみた春の服装	川路柳虹
3・27	②	大盗と小盗	亀井勝一郎			日本人らしさ	木村荘八
		文芸日評 非机上臆論	林房雄			もつと訓練を	

4・10	②	四月の磯にて	邦正美	4・24	②	子供の悪戯	関口次郎
		文芸日評 新劇(中)	石塚友二			文藝日評 断地獄篇	林房雄
4・11	②	大きな名刺	林房雄	4・25	②	名演説	大佛次郎
		文芸日評 新劇(下)	宮崎博史			文藝日評 追放	林房雄
4・13	②	文芸日評 最高峰	林房雄	4・27	②	智能検査	坂口安吾
4・14	②	文芸日評 通俗	林房雄	4・28	②	文藝日評 短篇小说	林房雄
4・15	②	笑つて答へず	河盛好藏			火災恐怖症	立野信之
		文芸日評 啓蒙	林房雄	4・29	②	文藝日評 鏡の園	林房雄
4・16	①	今日のことば 簡体字をつくれ	神西清			当選短篇小説 片隅	野沢宗一
	②	ポスター	含宙伴夢聲			選評	林房雄
		文芸日評 怪奇小説	林房雄	4・30	②	文藝日評 けれども地球は	林房雄
4・17	②	精神と選挙風景	丹羽文雄			種蒔	石塚友二
		文芸日評 賀辞(上)	林房雄	5・1	②	文藝日評 区別	林房雄
4・18	②	新しい区長	芝木好子			種明えたり	石塚友二
		文芸日評 賀辞(中)	林房雄	5・2	②	文藝日評 自信	林房雄
4・19	②	エロチシズム	舟橋聖一			御用心	含宙野夢聲
		文芸日評 賀辞(下)	林房雄	5・3	①	文藝日評 恋文	林房雄
4・20	②	文芸日評 冒険小説	林房雄			新憲法の讃歌	佐藤春夫
		十年の小計	上司小剣			日本国新憲法	吉野秀雄
4・23	②	文藝日評 蜜蜂と蟻	林房雄	5・4	②	文藝日評 中央小説	林房雄
						こども新語	宮崎博史

5・5	②	文藝日評 露出	林房雄	5・20	②	当選短篇小説 音楽会	徳田奈子
5・6	②	当選短篇小説 額	黒兎三夫			文藝日評 捕虜文学	林房雄
		選評	林房雄	5・21	②	古典夢の国	亀井勝一郎
5・7	②	文藝日評 ストーリー	林房雄			文藝日評 玉葱小説	林房雄
		村の二日	玉川一郎			やさしい言葉を	長田恒雄(談)
5・9	②	文藝日評 聖裸体	林房雄	5・22	②	家庭とダンス	芝木好子
		台湾外記	西川満			文藝日評 労働文化	林房雄
5・12	②	文藝日評 馬耳東風	林房雄	5・23	②	猫鍋	含由軒夢聲
5・13	②	文藝日評 恋愛佳作抄	林房雄			文藝日評 茶道	林房雄
		当選短篇小説 落語 メダカ料理	水谷要	5・24	②	最近の文学観	上司小剣
		選評	林房雄			文藝日評 運命	林房雄
5・15	②	文藝日評 俗談	林房雄	5・26	②	文藝日評 アメリカ物語	林房雄
		藝術と政治―個人と政党―	上司小剣	5・27	②	当選短篇小説 墓盗人	藤野東作
5・16	②	文藝日評 誠実	林房雄			文藝日評 誤認	林房雄
		内助	佐瀬利吾郎	5・28	②	土曜日	宮崎博史
5・17	②	文藝日評 畸形	林房雄			婦人雑誌評	古谷綱武
		映画と連句	小津安二郎			文藝日評 編輯青年	林房雄
5・18	②	文藝日評 公式	林房雄	5・29	②	文藝日評 編輯青年(中)	林房雄
5・19	②	文藝日評 サルトル	林房雄	5・30	②	文藝日評 編輯青年(下)	林房雄
		文藝日評 伝統	林房雄	5・31	②	宗教と共産主義 宗教時評	亀井勝一郎

6・1	②	文藝日評 共感	林房雄
6・2	②	文藝日評 組みちがひ	林房雄
		同時代人にふりかける薬味【一】	
		詩壇時言	菊岡久利
		教育時評 国定教科書の改革	亀井勝一郎
6・3	②	文藝日評 佳作	林房雄
		当選短篇小説 悪魔のしつば	白柳美彦
		選評	林房雄
6・4	②	文藝日評 楽しい玩具	林房雄
		同時代人にふりかける薬味【二】	
		詩壇時言	菊岡久利
		ストレーチイの再評価(上)	吉田健一
6・5	②	文藝日評 市民大学	林房雄
		同時代人にふりかける薬味【三】	
		詩壇時言	菊岡久利
		ストレーチイの再評価(下)	吉田健一
6・6	②	文藝日評…115…大往生(上)	林房雄
		私小説は非小説 文藝家協会委員会の意見	
		木々高太郎	
6・7	①	ヒトラーの焚書に似た一部著作家の除外	
		ペンクラブ問題 連合国記者の意見	
		対外的に『微妙』 当分遠慮してもらう	新居格氏
		笑えぬ喜劇	佐々木孝丸氏
	②	文藝日評…116…大往生(中)	林房雄
		文助の漂流	西川満
	②	文藝日評…117…日本小説(上)	林房雄
	②	風俗時評(上) 着物パレード	澁澤秀雄
	②	文藝日評…118…大往生(下)	林房雄
		回復の夢 結核予防によせて 芹澤光治良	
	②	風俗時評(下) 着物パレード	澁澤秀雄
		文藝日評…119…日本小説(下)	林房雄
		当選短篇小説 兄	多田純
		選評	林房雄
	②	文芸日評…120…新説物?	林房雄
	②	文藝時評(1) 敬称を略す	丹羽文雄
	②	文藝日評…121…ヘンテコ星	林房雄
	②	文藝時評(2) 敬称を略す	丹羽文雄
	②	文藝日評…122…人間	林房雄
	②	文藝時評(3) 敬称を略す	丹羽文雄
	②	文藝日評…123…東京	林房雄
	②	文藝時評(4) 敬称を略す	丹羽文雄

6・15	②	美術時評(上) 画壇の凸凹 文藝日評:124…オール読物	正木篤三 林房雄		詩壇時評(上) 詩と詩人の悲劇 川柳時評(1) 寸鉄殺人のゆくえ	西川満
6・16	②	文藝時評(5) 敬称を略すⅡ 文藝日評:125…ダイジェスト 『東京哀詩』と薔薇座【上】	丹羽文雄 林房雄 菊田一夫	6・22 ②	文藝日評:133…自由主義(下) 詩壇時評(中) 酒尽きぬまに 川柳時評(2) 新人出でず	石原青龍 林房雄 西川満
6・17	②	文藝日評:126…新生活 当選短篇小説 写真 選評	高松善次郎 林房雄	6・23 ②	文藝日評:134…諷刺文学 詩壇時評(中) 光る雨の櫛で 川柳時評(3) 笑えない喜劇	石原青龍 林房雄 西川満
6・18	②	文藝日評:127…珠玉 短歌時評(上) 歪んだ窓 黄金の隼	林房雄 岡山巖 吉田健一	6・24 ②	文藝日評:135…自叙 当選短篇小説 贈物	石原青龍 林房雄 中村光一
6・19	②	『東京哀詩』と薔薇座【下】 文藝日評:128…暴力 短歌時評(中) 窓にすがる 受難に立つ新しき美 青年作家同盟主催 『文学の夕べ』録音 伊藤整(談)	林房雄 岡山巖 岡山巖	6・27 ②	文藝日評:138…幻影 『文学界』と自分(下) — 新人は語るダンディズム礼讃 柴田鍊三郎 文藝日評:139…邪教 文藝時評(1) 小説六つ	河上徹太郎 林房雄 古川緑波
6・20	②	春婦傳 書評 文藝日評:131…自由主義(上) 短歌時評(下) 歌人らしい歌人 粗略な人間扱い	大竹正巳 林房雄 岡山巖 寺崎浩	6・29 ②	新仮名遣ひに就て(1) 暁・丹羽文雄・井上友一郎・久保田万太郎 文藝日評:140…幻滅(上) 文藝時評(2) 谷崎の『細雪』と里見の『十年』	上林 林房雄 古川緑波
6・21	②	文藝日評:132…自由主義(中)	林房雄			

- 文藝時評2 葦平の「亡霊」 西川満
残暑漫筆 上司小剣
8・23 ② 学士院と藝術院 亀井勝一郎
第二藝術に問ふ(下) 岡山巖
ひしがれる文化 堀内敬三
文藝時評3 新時代記念碑 西川満
② ダイヤの指輪 栗谷薫
8・25 文藝日評―162―偶像崩壊 林房雄
洪水におもふ 伊藤永之介
娯楽結構なれど―小説の面白さに就て
(上) 木村莊十
8・26 ② 文藝日評―163―文明批評(上) 林房雄
当選短篇小説 虹の橋 前田昌夫
選評 林房雄
ばらの手 伊藤海彦
ざりがに(上) 小宮義孝
8・27 ② 文藝日評―164―文明批評(下) 林房雄
虚栄心で読むなかれ 小説の面白さに就て
(中) 木村莊十
ざりがに(中) 小宮義孝
8・28 ② 文藝日評―165―全人 林房雄
- 穢らはしい心 小説の面白さに就て(下) 木村莊十
ざりがに(下) 小宮義孝
8・29 ② 文藝日評―166―遺物 林房雄
夏目家の場合 著作権の危機に就て 野田宇太郎
西洋小説と基督教 亀井勝一郎
文藝時評1 “恋にあらず”の示唆 鹿島孝二
② 文藝日評―167―地獄 林房雄
8・30 小売店の実例 著作権の危機に就て(中) 野田宇太郎
ラムプ 伊藤海彦
8・31 ② 文藝時評2 “恋にあらず”の示唆 鹿島孝二
文藝日評―168―政党同人雑誌 林房雄
知性喪失日本 著作権の危機に就て(下) 野田宇太郎
9・1 ① 稲の花 吉植庄亮
文藝時評3 “恋にあらず”の示唆 鹿島孝二
文化日評 美名のインフレーション 亀井勝一郎
② 文藝日評―169―政治と文学 林房雄

		情熱あるウソ 大衆文学の在り方 今井達夫			
	9・2	② 私と短歌(上)	川上喜久子		
		文藝日評―170―通俗論	林房雄		
		私と短歌(中)	川上喜久子	9・8	② 邪教と科学的知識
	9・3	② 文藝日評―171―三十代(1)	林房雄		文藝日評―176―蒙昧論(1)
		ユーモア論	亀井勝一郎		放送局に就て(下)
		私と短歌(下)	川上喜久子		露伴と台湾文学
	9・4	② 文藝日評―172―三十代(2)	林房雄	9・9	② 貿易と藝術
		琴を恋ふ	堤千代		文藝日評―177―蒙昧論(2)
		美しい話し方	岡本太郎		当選短篇小説 修行僧たち
	9・5	② 文藝日評―173―三十代(3)	林房雄	9・10	② 文化の整理
		新人は語る 上 何れも箱庭小説			文学座談会1 今は小説時代 批評家は天の
					邪鬼 小林秀雄 舟橋聖一 亀井勝一
		人間電気	小笠原貴雄		郎 林房雄(以下出席者略)
	9・6	② 文藝日評―174―三十代(4)	林房雄	9・11	② 瀬戸内海
		新人は語る 中 雑誌へ哀訴	小笠原貴雄		文藝日評―178―蒙昧論(3)
		二号の問題	寺崎浩		文学座談会2 娯楽も修業だ まづ近いところから
		生活の音楽	野村光一		新仮名遣に反対す
	9・7	② 文藝日評―175―三十代(五)	林房雄		余聞
		放送局に就て(上)	石川達三	9・12	② 文藝日評―179―蒙昧論(4)
		新秋小吟	吉野秀雄		文学座談会3 宗達の画 ふかい喜びがある
					吉田健一 林房雄
					森口多里 林房雄
					石川達三 西川満
					正木篤三 林房雄
					室町たかし 平山蘆江
					岡山巖 林房雄
					春野鶴

- | | | | | |
|------|---|---|-------------------------------------|---|
| 9・13 | ② | 一つの事件
文藝日評—180—蒙昧論(終)
文学座談会4 なぜ歌舞伎は 古典に祭りあげられたか | 本多顯彰
林房雄 | 吉田健一
西川満 |
| 9・14 | ② | 文藝日評—181—健康探偵小説
文学座談会5 古典文学の美 歌舞伎はほろびず | 林房雄 | 石原青龍
林房雄
新関良三 |
| 9・15 | ② | 文藝日評—182—煽情小説
文学座談会6 現代の黙阿弥 川口松太郎を認める | 林房雄 | ① 人生日評 幸福とは何?
帆船理一郎
石原青龍
西川満 |
| 9・16 | ② | 文藝時評 通俗に就いて
文藝日評—183—愛国主義
当選短篇小説 孝行息子
さくらの花Ⅱ桑港抒情集のうち
串カツと文学 | 北條誠
林房雄
高麗由貴夫
土橋治重
土師清二 | 文藝日評—187—道学者論(4)
新人発掘について
読書点滴 下 紙魚の冤罪
福田清人
西川満 |
| 9・17 | ② | 文藝日評—184—道学者論(1)
文学座談会(終) 詰らぬ藝術祭 観覧料はきつと上る | 林房雄 | 文藝日評—188—道学者論(終)
大林清 |
| 9・18 | ② | 文藝日評—185—道学者論(2)
書評 本格小説の在り方 神西清氏『恢復 | 佐藤敏
林房雄 | 文藝時評 小説と年齢
婦人雑誌評 女学生雑誌の視野
川柳時評 龍寶寺再建寄進問題
文藝日評—189—放送官僚
石原青龍
林房雄
大林清 |
| | | | | 文藝時評 中 戯作精神に就いて
堺さんと上司さん—亡き人々の思ひ出 |

9・23	②	川柳時評「番傘」の句 女流作家の米映画座談会 文藝日評―190―印税（上） 悲しき魚 文藝時評 下速かに故郷へ帰れ 文藝日評―191―印税（下） 文藝日評―192―怪談（上） 夏祭り秋祭り―絶筆― 世界の窓 文藝日評―193―怪談（下） 蛍光灯（上）ずゐ筆 大臣と文学 文藝日評―193―青年作家 蛍光灯（中）ずゐ筆 書窓 盲目 蛍光灯（下）ずゐ筆 作品と女性美 第二回記念の在り方 日本の美学	安成二郎 石原青龍 林房雄 佐藤垢石 大林清 林房雄 林房雄 上司小剣 菱山修三 阿部金剛 岡田三郎 林房雄 阿部金剛 西川満 亀井勝一郎 阿部金剛 美川きよ 宮本三郎 岡本太郎	9・30	②	美術家の生きる道 文藝日評―196―田舎記者（1） 新しい詩人群 文藝日評―197―田舎記者（2） 当選短篇小説 仮面 大衆雑誌評（1）キング 詩壇時評上「暗愚小伝」の場合 文藝日評―198―田舎記者（3） 麒麟と驚馬（上） 大衆雑誌評（2）につぼん 「ストレンジヤー」―桑港抒情集から― 詩壇時評 下 詩の会の諸性格 文藝日評―199―田舎記者（4） 麒麟と驚馬（下） 児童文化の基礎 中国の文化人 文藝日評―200―田舎記者（終） 放送局と著作権 石川達三氏に答ふ	中谷ミユキ 林房雄 草野心平 林房雄 張替久男 宮崎博史 江口榛一 林房雄 火野葦平 宮崎博史 土橋治重 江口榛一 林房雄 火野葦平 滑川道夫 寺田良蔵 林房雄 春日由三
9・26	②			10・1	②		
9・27	②			10・2	②		
9・28	②			10・3	②		
9・29	②						

- | | | | | | | | |
|------|---|---|---|-------|---|---|----------------------|
| 10・4 | ② | 大衆雑誌評(3) ホープ
中国出版界のインフレ
文藝日評—201—日本小説
“文学”といふ職業
手近かなところから
第二藝術私語
書窓 | 宮崎博史
坂本徳松
林房雄
吉田健一
森岩雄
長田恒雄
西川満 | 10・10 | ② | 終戦後の独逸文学界
ずゐひつ ベラグラの話
文藝日評—206—抗議(2)
学べ民主化 米映画を語る座談会(1)
澁澤秀雄・岡野英規・菊田一夫・春山行
夫・島照・伊勢壽雄(以下出席者略)
文壇と十五年 思ひ出の作家の顔(上) | 本田良介
筒井潔
林房雄 |
| 10・5 | ② | 文藝日評—202—小説伝統(上)
放送余韻(上) | 林房雄
南江治郎 | 10・11 | ② | 重の井
文藝日評—207—抗議(3)
観るのは義務Ⅱ米映画を語る座談会(2)
文壇と十五年—思ひ出の作家の顔(中) | 三宅正太郎
田中秀一
林房雄 |
| 10・6 | ② | 大衆雑誌評(4) 新読物
ドイツ映画の復興
著作権侵害
近代美術館の構想
—西洋美術名作展に就て
放送余韻(下) | 太田良介
亀井勝一郎
谷川徹三
南江治郎 | 10・12 | ② | 文藝日評—208—低脳の解説
大概の小説は必ず映画化
Ⅱ米映画を語る座談会(3)
文壇と十五年—思ひ出の作家の顔(下) | 林房雄
三宅正太郎 |
| 10・7 | ② | 大衆雑誌評(5) 新青年
文藝日評—203—小説伝統(下)
ピカソと体力 | 宮崎博史
林房雄
宮田重雄 | 10・13 | ② | どんな映画をぜひ見せたい
Ⅱ米映画を語る座談会(4)
女に | 三宅正太郎
安島公治 |
| 10・8 | ② | 文藝日評—204—漫画
時代小説に就いて | 林房雄
貞金敏明 | | | | |
| 10・9 | ② | 文藝日評—205—抗議(1) | 林房雄 | | | | |

10・14	② 文藝日評—209— ロマネスク 当選短篇小説 陸橋 今後の日本に何を示唆する Ⅱ米映画を語る座談会(5) 漢字制限 戦後の流行語 “心温まる” Ⅱ米映画を語る座談会(6) 画家と放浪性 文藝時評 茶坊主評論 文藝日評—210— 権力慾 旅の雑感 二つの世界 高い生活のレベル Ⅱ米映画を語る座談会(7) 文藝日評—211— 二十代 国立劇場未し 文藝時評 戦争体験の文学 わすれさせる生活の苦しみ Ⅱ米映画を語る座談会(8) 文藝日評—212— 一元論 なな癖(1) ハッピー・エンドを支持	林房雄 前田昌夫	10・22	② Ⅱ米映画を語る座談会(9) 文藝日評—214— 自伝(二) “河童”の文学(上) なな癖(4) 最近の新人 Ⅱ河童”の文学(中) なな癖(5) 怠惰癖 太宰治の結婚 Ⅱ河童”の文学 (下) なな癖(6) 映画時評 京都派の危機 忘れられたもの 文藝日評—215— 素直 知育を偏重すべし 文藝日評—216— 通俗再論 文藝時評 新人論 文藝日評—217— 大衆小説 おもしろい小説(上) 鑑賞能力豊かなるべし 農村への感情 書窓	林房雄 貫田不二夫 里見弴 十返肇 貫田不二夫 里見弴 羽田義明 貫田不二夫 里見弴 樋爪五郎 岡邦雄 林房雄 本多顕彰 林房雄 野間宏 林房雄 今井達夫 貞金敏明 西川満
10・15	② 漢字制限 戦後の流行語 “心温まる” Ⅱ米映画を語る座談会(6) 画家と放浪性 文藝時評 茶坊主評論 文藝日評—210— 権力慾 旅の雑感 二つの世界 高い生活のレベル Ⅱ米映画を語る座談会(7) 文藝日評—211— 二十代 国立劇場未し 文藝時評 戦争体験の文学 わすれさせる生活の苦しみ Ⅱ米映画を語る座談会(8) 文藝日評—212— 一元論 なな癖(1) ハッピー・エンドを支持	寺崎浩	10・23	② Ⅱ河童”の文学(中) なな癖(5) 怠惰癖 太宰治の結婚 Ⅱ河童”の文学 (下) なな癖(6) 映画時評 京都派の危機 忘れられたもの 文藝日評—215— 素直 知育を偏重すべし 文藝日評—216— 通俗再論 文藝時評 新人論 文藝日評—217— 大衆小説 おもしろい小説(上) 鑑賞能力豊かなるべし 農村への感情 書窓	貫田不二夫 里見弴 羽田義明 貫田不二夫 里見弴 樋爪五郎 岡邦雄 林房雄 本多顕彰 林房雄 野間宏 林房雄 今井達夫 貞金敏明 西川満
10・16	② 文藝日評—210— 権力慾 旅の雑感 二つの世界 高い生活のレベル Ⅱ米映画を語る座談会(7) 文藝日評—211— 二十代 国立劇場未し 文藝時評 戦争体験の文学 わすれさせる生活の苦しみ Ⅱ米映画を語る座談会(8) 文藝日評—212— 一元論 なな癖(1) ハッピー・エンドを支持	亀井勝一郎 林房雄 鈴木安蔵	10・24	② Ⅱ河童”の文学 (下) なな癖(6) 映画時評 京都派の危機 忘れられたもの 文藝日評—215— 素直 知育を偏重すべし 文藝日評—216— 通俗再論 文藝時評 新人論 文藝日評—217— 大衆小説 おもしろい小説(上) 鑑賞能力豊かなるべし 農村への感情 書窓	貫田不二夫 里見弴 樋爪五郎 岡邦雄 林房雄 本多顕彰 林房雄 野間宏 林房雄 今井達夫 貞金敏明 西川満
10・17	② 文藝日評—211— 二十代 国立劇場未し 文藝時評 戦争体験の文学 わすれさせる生活の苦しみ Ⅱ米映画を語る座談会(8) 文藝日評—212— 一元論 なな癖(1) ハッピー・エンドを支持	林房雄 大竹正巳	10・25	② 文藝日評—215— 素直 知育を偏重すべし 文藝日評—216— 通俗再論 文藝時評 新人論 文藝日評—217— 大衆小説 おもしろい小説(上) 鑑賞能力豊かなるべし 農村への感情 書窓	林房雄 本多顕彰 林房雄 野間宏 林房雄 今井達夫 貞金敏明 西川満
10・19	② 文藝日評—212— 一元論 なな癖(1) ハッピー・エンドを支持	林房雄 里見弴	10・27	② 文藝日評—217— 大衆小説 おもしろい小説(上) 鑑賞能力豊かなるべし 農村への感情 書窓	林房雄 今井達夫 貞金敏明 西川満

10・28	②	当選短篇小説 秋出水	土屋寛	思い出す作家 谷崎潤一郎氏	三宅正太郎
		選評	林房雄	俳優あれこれ	江間章子
10・29	②	文藝日評―218― 企業論	林房雄	空間はないか(2)	武林無想庵
		おもしろい小説(中) それからときかれ		思い出す作家 吉川英治氏	三宅正太郎
		ない小説	今井達夫	空間はないか(3)	武林無想庵
		水の表情	川島理一郎	思い出す作家 宇野浩二氏	三宅正太郎
		よめ・しうと	寺崎浩	鶏の脚	春野鶴
10・30	②	演劇・映画の野蛮性	森岩雄	空間はないか(4)	武林無想庵
		おもしろい小説(下) 愚直では大衆小	今井達夫	思い出す作家 丹羽文雄氏	三宅正太郎
		説は書けぬ		文藝日評―219― エピローグ(1) 林房雄	西村孝次
10・31	②	書評 林房雄の『結婚の幸福』	亀井勝一郎	動と不動	三宅正太郎
11・2	②	文藝 デカダンと推理もの	板垣直子	思い出す作家 武田麟太郎氏	三宅正太郎
		ロシアの冬と寒さ ソ連抑留の思ひ出		文学雑誌の革命	亀井勝一郎
		(上)	筒井潔	随筆『忠臣蔵』見物(下)	秋山安三郎
11・3	②	戦争創作界の展望(上)	阪東明	第三の英雄	亀井勝一郎
		同居する「新」と「旧」 ソ連抑留の思ひ出(下)	筒井潔	関西文壇の動き(1)	及川英雄
11・4	②	戦争創作界の展望(下)	阪東明	困る都市偏重 国立劇場設立に就いて	河竹繁俊
		片山首相の一文	古谷綱武	ふとん―中国随筆―	春野鶴
		思い出す作家 志賀直哉氏	三宅正太郎	文藝 関西文壇の動き(2)	及川英雄
11・5	②	空間はないか(1)	武林無想庵	ことばの問題―新しい国語の実行	

11・16	② 文藝 釣魚文学(1)	大島義夫	11・22	② 釣魚文学(6)	村上知行
	文学の輸出と明日の文学	林房雄		続文壇と十五年 思い出す作家の顔	林房雄
11・17	② 文藝 釣魚文学(2)	小牧近江		(3) 新居格氏 室生犀星氏 三宅正太郎	
	デコボコ世相談	林房雄		停電下の感想	石塚友二
11・18	② 文藝 釣魚文学(3)	伊馬春部	11・23	② 釣魚文学(7)	林房雄
	関西文壇の動き(3)	及川英雄		静物について	内田誠
11・19	② 文藝 釣魚文学(4)	林房雄		食事Ⅱ中国随筆Ⅱ	春野鶴
	当選短篇小説 手術	小林学	11・24	② 技巧と内容Ⅱ流行作家の作品	十返肇
	② 釣魚文学(4)	林房雄	11・25	② 当選短篇小説 秋風	中村俊雄
	続文壇と十五年 思い出す作家の顔			思い出す作家の顔(4) 豊島與志雄氏	
	(1) 横光利一氏	三宅正太郎			三宅正太郎
	『話の泉』こぼればなし	堀内敬三			
11・20	② 綿入れ 中国随筆	春野鶴	11・26	② 創作慾を刺激Ⅱ読書週間を顧みて	石井満
	続文壇と十五年 思い出す作家の顔(2)			ユーモア作家と米映画放談会(上)	獅子
	高村光太郎氏	三宅正太郎		文六 宮崎博史 玉川一郎 乾信一郎 横	
	裸形の見世物 現代エロチシズム放談			山隆一 秋好馨 中原淳一 関千恵子 沢	
	(上)	村上知行		紀子 及川千代 小林圭樹(以下出席者	
	湯たんぽⅡ中国随筆Ⅱ	春野鶴		略)	
11・21	② 釣魚文学(5)	林房雄	11・27	② 釣魚文学(8)	林房雄
	馬琴百年忌 早大図書館長 岡村千曳			現代不安の追究	菱山修三
	日本人の性感 現代エロチシズム放談			ユーモア作家と米国映画放談会(中)	

11・28	②	釣魚文学（9） 肖像画の場合 ユーモア作家と米国映画放談会（下）	林房雄 津田青楓
11・29	②	釣魚文学（10） 最近の関西劇壇	林房雄 寛一彦
11・30	②	釣魚文学（11）	林房雄
12・1	②	釣魚文学（12）	林房雄
12・2	②	釣魚文学（13） 当選短篇小説「鬼っ子」 文藝時評 伝統の再確認 没有法子 中国随筆	林房雄 木村三郎 阪東明 春野鶴
12・3	②	釣魚文学（14） 文藝時評 原稿料の問題 面白くない なぜ短篇小説は伊集院斉	林房雄 林房雄 山口長男
12・4	②	釣魚文学（15） 藝術は蜃気楼 文展と前衛運動	林房雄 東郷青児
12・5	②	釣魚文学（16） にんにく愛用 中国随筆 短詩型文化の反省	林房雄 春野鶴 竹田文雄
12・6	②	邦人に三度冬来るⅡ東リベリアの寒さ	
12・7	②	川柳時評1 川柳作家の輿論調査 文藝時評 『斜陽』の意義	石原青龍 十返肇
12・8	②	川柳時評2 川柳作家の輿論調査 雑誌の汜らん 一九四七年の文壇回顧	石原青龍 亀井勝一郎
12・9	②	師走の猫（1） 川柳時評3 余技に就て 一九四七年度の文壇回顧（2） 好色国へ 当選短篇小説 分哨の鶏	水木京太 石原青龍 亀井勝一郎 遠田昭夫
12・10	②	川柳時評4 時事吟に就て 一九四七年の文壇回顧（3） 健康な文学	石原青龍 亀井勝一郎 水木京太
12・11	②	師走の猫（2） 絵の香り 活躍した中堅作家 一九四七年の文壇回顧	辻永 亀井勝一郎 水木京太
12・12	②	師走の猫（3） ともしび（上）	水木京太 壺井栄
12・13	②	ほろびしものはなつかしきかな 1 仲木信二	

12・12	② 小説の運命 一九四七年の文壇回顧(5)	龜井勝一郎	12・19	② 権利金	鷺尾洋三
	文藝時評 小説の面白さ	大竹正巳	12・21	② 書評 中川一政の二著	武者小路実篤
	ほろびしものはなつかしきかな2	仲木信一		② 苦悩にあえぐ	十返肇
	ともしび(下)	壺井栄	12・22	② ましこ焼	伊福部敬子
12・13	② 評論界の新人 一九四七年の文壇回顧	龜井勝一郎	12・23	② 文藝 関心Ⅱ教師についてⅡ	泉木三樹
	(6)			当選短篇小説 空洞	津木隆
	ほろびしものはなつかしきかな3	仲木信一		自殺Ⅱ中国随筆Ⅱ	春野鶴
12・14	② 文藝雑誌の読者 一九四七年の文壇回顧	龜井勝一郎	12・24	② 文藝 銅像文化	一城龍彦
	(7)			ほろびしものはなつかしきかな6	仲木信二
	米映画覆面座談会☆問題の『失われた週末』			小新聞の氾濫と上海化	石敢当
12・15	② 一九四七年の文壇回顧(8) 当用漢字と新	仲木信一	12・25	② 作家の印象(1) 川端康成氏	三宅正太郎
	仮名遣ひ	龜井勝一郎		庶民の生活	村上知行
	ほろびしものはなつかしきかな4	仲木信一		ほろびしものはなつかしきかな7	仲木信二
12・16	② 当選短篇小説 狐と狸	山口里津子	12・26	② 作家の印象	三宅正太郎
	不合理に就て	寺崎浩		ラジオ解説 歴史をたぐる―新聞小説について(上)	船越章
12・17	② 文藝 『兵』二色	石原裕市郎		ほろびしものはなつかしきかな8	仲木信二
	アメリカ文学の地方主義(上)	都市文化と		作家の印象(3)	三宅正太郎
	地方文化	細入藤太郎	12・27	② ラジオ解説 問題は作家の態度―新聞小説について(下)	船越章
12・18	② アメリカ文学の地方主義(下)	作家の地方			
	分布図	細入藤太郎			

風呂Ⅱ中国随筆Ⅱ 春野鶴

12・28

② 藤村文学の劇化成り まづ『破戒』を上演
十年ぶりで返り咲く 夏川静江

『破戒』についてⅡ封建制の過誤を正すⅡ

川端康成

大きな試練

夏川静江

鼠を語る(上)

藤澤衛彦

風のたより

宇留間敬一

12・29

② 鼠を語る(中)

藤澤衛彦

12・30

② 作家の印象(5) 渡邊一夫氏 加藤美希雄
当選短篇小説 喜劇 山口峰三

鼠を語る(下)

藤澤衛彦

12・31

② 作家の秘密Ⅱ文学作品のいのちⅡ

鎌原正巳

明日の探偵小説

江戸川乱歩

※以下の日に発行された号は所蔵がなく、未見。 1・

12・17。 3・11、29、30。 5・8、11、25。 6・

25、26。 7・6、8・17。 8・24。 10・18、20、

21。 11・1、10、11。 また、以下の日には文藝記事が

なかった。 4・12、21、22、26。 5・10。 12・20。

【附記】 本論はJSPS 科研費 20K00346 および 22K00293 の
助成を受けたものである。

(さいとう まさお／本学教授)